

額田地域自然環境保全基礎調査について

調査の目的

- 平成18年1月に岡崎市と合併した旧額田町（以下「額田地域」という。）は、豊かな緑と清冽な水に恵まれた自然環境を有しています。
- しかしながら、開発行為による自然の減少、間伐などの手入れ不足による森林の荒廃など、多様な動植物の生息・生育環境を保全する上で配慮すべき課題もあります。
- また、額田地域では、現在、自然環境（特に保全すべき自然環境要素の分布状況）に関する情報が旧岡崎市に比べ少なく、整理されていない状況にあります。
- このような背景を踏まえ、今後の額田地域における自然環境保全施策を効果的に進めるため、保全すべき自然環境要素（動植物）の分布状況を収集・整理することを目的として「額田地域自然環境保全基礎調査」を実施しました。



保全すべき自然環境要素とは

- 本調査で調査対象とする保全すべき自然環境要素（動植物）は、原則として額田地域に生育・生息する動植物種のうち、以下のものとししました。
 - 天然記念物
 - 種の保存法対象種
 - 環境省または愛知県版レッドデータブックの掲載種
 - 有識者の意見により選定された種
- これらの種の多くは絶滅のおそれがあるとされる種であり、その存在は豊かな自然環境があることを示す指標となるものです。

調査の概要

- 本調査では、保全すべき自然環境要素の分布状況を把握するため、「資料調査」「ヒアリング調査」「現地調査」（10箇所）を実施しました。
- また、これらの調査結果をとりまとめ、データベースとして整理しました。

保全すべき自然環境要素の確認状況

- 調査の結果、保全すべき自然環境要素として、額田地域内で222種の動植物種と6件の天然記念物の分布情報が確認されました。
- これらのうち、愛知県版レッドデータブック掲載種は199種で、掲載種総数に対する確認率は22%でした。
- 特に哺乳類、鳥類、は虫類、魚類について、掲載種の確認率が高く、額田地域の森林や水辺環境が比較的良好な状態であることを示しています。
- 額田地域内10箇所での現地調査では、植物5種、動物21種、計26種の保全すべき自然環境要素が確認されました。

額田地域での県版レッドデータブック掲載種の確認状況

分類群		額田地域における 県RDB種 確認種数 (A)	県RDB 掲載種数 (B)	額田地域における 確認率 (A÷B×100)
植物	維管束植物	106	584	18 %
	哺乳類	10	23	43 %
動物	鳥類	31	82	38 %
	は虫類	2	4	50 %
	両生類	3	9	33 %
	魚類	9	18	50 %
	昆虫類	38	186	20 %
	(動物計)	93	322	29 %
合計		199	906	22 %

注：本調査対象外の分類群（蘚・苔・貝・クモ類）は集計に含みません。

【主な植物】 サクラバハシノキ、ミヤマカタバミ、ユクノキ、マツムシソウ、ササユリ
【主な動物】 ムササビ、オオタカ、クマタカ、カワガラス、ミソサザイ、タカチホヘビ、モリアオガエル、カジカガエル、ホトケドジョウ、ゲンジボタルなど